



# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆 連絡先 090-7118-2312

<http://ashiya9.web.fc2.com/>

## 戦争をする国にさせないために

6月4日、芦屋「九条の会」11周年記念のつどいを上宮川文化センターで開催しました。『永続敗戦論』筆者である白井聡さん（京都精華大学人文学部専任講師）の「戦争をしない国であり続けたい」と題した講演を、廊下まで溢れた280人が聞き入りました。また、山中健芦屋市長から「つどい」にメッセージが届きました。以下、講演要旨です。

### 安倍暴走ストップ、野党共闘成立で潮目変わる

安倍首相は7月の参議院選挙をダブル選挙にしたかったのにできなかった。経済政策を前面に打ち出したいが、アベノミクス破綻を認めざるを得なくなり、消費税増税2回の延期はサミットを利用した。安倍首相は憲法を変えるために、①集団的自衛権を閣議決定。これは改憲したのと同じで9条の実効力を失わせたに等しい ②9条2項がターゲットだが、国民の心理的ハードルが高いため、いきなりはできない。非常事態（戦争と災害）が起きた時に権利を停止 ③そして憲法を全面的に変える。②→③の移行は飛躍があるので、非常事態、戦争・紛争を起こせば、現状追認せざるをえなくなる。今回の選挙はセカンドステップにいる。参議院選挙の争点は、「改憲勢力3分の2」の阻止である。

しかし、全国で野党共闘が成立し潮目が変わってきた。本気で頑張れば希望がある。

### 今、社会の地殻変動は生じている

『永続敗戦論』執筆動機は、鳩山政権の退陣劇と福島第一原発事故。前者は普天間基地移設問題をめぐり日米の意思が衝突した結果、日本側が敗北。しかし、敗北を直視する代わりに、鳩山氏個人の資質に関する問題に終始した。8.15を「敗戦の日」ではなく、「終戦の日」として記憶していることと同じ。後者は「無責任の体系」の本質であり、《国体護持》のために無意味な戦闘を延々と継続。その結果、日本人300万人が死亡した内の200万人は最後の1年で死亡。国体護持のためなら、国家本来の目的はどうでもいいのと同じで、《原発推進体制維持》のために国民がどんなに不幸になってもいいとしている。

戦後、指導者は敗戦の責任をうやむやにし、誰も責任を取る必要も反省する必要もない。負けたことを認めていないので延々と負け続ける。すなわち、永続敗戦。その目的は、米国によって免責・登用された旧支配層を傀儡勢力として戦後も引き続き活用するためである。敗戦を否認し、1945. 8.15の敗戦を曖昧化するプロジェクトが始動することになり、「あの戦争は負け戦ではない、単に終わったのだ」という歴史意識を国民に刷り込んできた。敗戦を総括できなかったことが、現代の日本社会の在り方や社会の権力構造などの根底にある。

戦後は、世界に類を見ない《特殊な》対米従属体制を形成。日本は片思い・妄想で、損得感情はない。「米国は日本を愛し

